



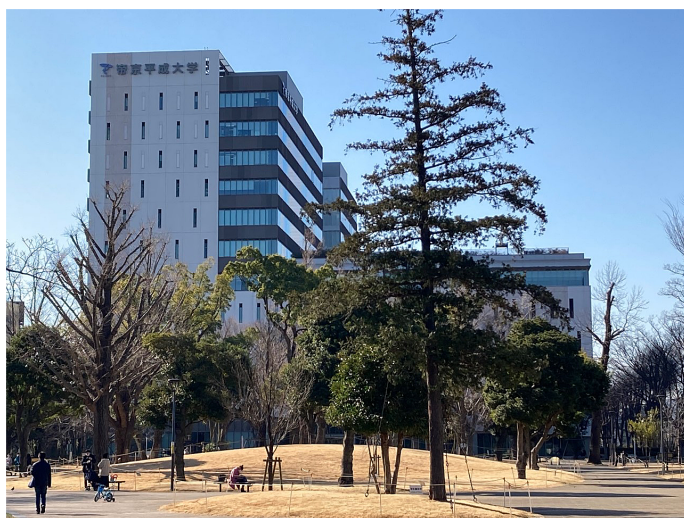
帝京平成大学薬学部膜機能ユニット

中谷 良人

2021年4月より帝京平成大学薬学部教授として赴任しました。中谷良人と申します。この度は研究室紹介の機会を頂戴し、感謝申し上げます。私は、1991年に東京大学薬学部を卒業し、大学院博士課程を中退した後、昭和大学薬学部助手として赴任しました。その間、衛生化学教室に所属し、一貫して脂質生化学研究に従事して参りました。生体内で生合成される代表的な脂質性生理活性物質であるプロスタグランジン (PG) の産生に関わる酵素の精製および性状解析から研究をスタートし、それらの活性調節機構の解明を行ってきました。具体的には、細胞質に存在する酵素である細胞質型PGE合成酵素 (cPGES) の精製と遺伝子クローニングを行い、遺伝子欠損マウスの作出と表現型の解析の結果、本酵素が生命維持に必須であることを発見し、本来のPGE₂産生だけでなく、多彩な遺伝子の発現に関わることを明らかにすることができました。現在は本酵素が多機能性を発揮する分子機構を解明することを目指しています。

今回着任した帝京平成大学薬学部は2004年に開設された比較的歴史の浅い学部で、はじめ千葉県市原市に所在していましたが、2013年より東京都中野区にキャンパスを新設し移転しました。最寄り駅は中野駅で、新宿駅から快速電車で4分という交通の利便性が非常に高い環境にあるにもかかわらず、校舎の目の前には中野四季の森公園という広大な公園があり、日中は多くの家族連れが訪れ、芝生の上で寛ぐのどかな光景が見られます (写真)。中野キャンパスには薬学部以外に2学部を併設しており、5000人を

超える学生が日々学んでいます。本学の建学の精神は「実学の精神を基とし、幅広い知識と専門分野における実践能力を身につけ、創造力豊かな逞しい人間愛にあふれた人材を養成する」というもので、現代において真に社会に役立つ能力を持つプロフェッショナルな人材を養成することを目指しています。薬学部は四つの部門と三つのセンターから成り、それらの下に27のユニットが設置されており、私は細胞機能教育研究部門の膜機能ユニットに所属しております。現在、膜機能ユニットには私を含めて4名の教員が所属しており、生体膜の新しい機能を解明し、病態の解明や医薬品への応用を目標として研究に従事しています。主なテーマは、エキソソームあるいはマイクロベシクルと呼ばれる細胞外膜小胞の解析、細胞膜に埋め込まれた受容体やトランスポーターの結合タンパク質の解析と、私が主導する生体膜の主要構成成分であるグリセロリン脂質より生合成されるPGE₂の産生に関わる酵素群の解析です。詳細は当ユニットHP (<https://pharm.thu.ac.jp/research/unit/makukinou.html>) を参照ください。学生は4年次より各ユニットに配属され卒業研究を行います。本ユニットには現在32名の学生が所属しています。本学のような私立大学の薬学部では薬剤師養成が大命題であるため、薬学研究と国家試験対策の両立に苦勞する学生が多いのですが、両者を乖離させることなく学んでもらうのと同時に、研究の楽しさを実感してもらうことを心掛けて指導しています。今後は新しい環境に慣れつつ研究と薬学教育に精進する所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜れましたら幸いです。



中野四季の森公園から望む本学外観